

悠久の時流れる神秘の島、屋久島を歩く 1日目

開催日：2024年5月28日（火） 曇り

集合：羽田空港第1ターミナル2階南ウイングJAL鹿児島行搭乗口 7時30分

日程：羽田空港（8時05分）→（9時55分）鹿児島空港（10時30分）→（11時10分）

屋久島空港→島まわりバス観光（大川の滝→西部林道→永田いなか浜）→民宿やくすぎ荘

変更日程：羽田空港（8時05分）→（9時55分）鹿児島空港→（高速バス）→鹿児島港（高速船）

（13時20分）→（15時13分）宮之浦港（バス観光）→千尋の滝→民宿やくすぎ荘

参加者：岩元（L） 熊坂（SL） 奈良 河野 栗田 市村 小田 高橋友 三田 玉利 高津佐 越後
齊藤厚 工藤 14名

「悠久の時流れる神秘の島、屋久島を歩く」1日目のスケジュールは、羽田空港から鹿児島空港経由で屋久島空港へ、バスで島まわり観光の予定でした。ところがところが、この日は強い台風1号がフィリピンの東を北東へ進み、西・東日本では太平洋側に延びる前線や低気圧などの影響で大雨になるところがありました。「屋久島を歩く」期待感と「飛行機が欠航しないか」の不安感が入り混じって羽田空港へ向かいました。いろいろありましたが屋久島へ着きました。着きましたが、予定の屋久島空港着陸ではなく写真のように屋久島港へ上陸でした。はてさてどんな道中だったのでしょうか。



羽田空港8時5分~鹿児島空港~高速バス~11時49分 高速船旅客ターミナル

8時前の羽田国際空港、外は小雨。出発便の電光案内板は、「鹿児島行き8時5分発、鹿児島空港視界不良のため福岡空港に向かうか引き返すことがあります」と表示されています。飛行機は定刻に出発、ほぼ満席。機内でも電光案内板と同内容のアナウンスがありました。順調に飛行して、鹿児島上空に入り「着陸に入ります、シートベルトを確認してください」のアナウンス。10時前に着陸、無事着いたと思いきや「10時30分発の屋久島行は視界不良のため欠航」のアナウンス。空港ロビーで荷物を受け取り、みなさん思案顔。しばらくして岩元リーダーが「高速船で屋久島に行きます。高速船旅客ターミナルまで高速バスで行きます」と予定変更を説明。11時のバスに乗車、高速道路を走り鹿児島市街地に入りました。「鹿児島市はさすが県庁所在地だけあって大きな街だね」と、見通しがついたせいか街並みを楽しむ余裕も。11時40分、鹿児島中央駅バス停に到着。さらに少し走り11時49分、種子・屋久高速船旅客ターミナルに着きました。

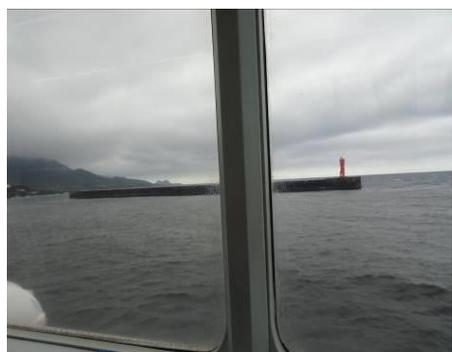


回転すし「めっけもん」で昼食～鹿児島港13時20分～15時13分 宮之浦港

船は順調に運航しているようで待合室は大勢の人で混雑。屋久島行13時20分発高速船の手続き開始は12時20分から、岩元リーダーが全員の搭乗券を購入することになり、みなさんは昼食タイム。ターミナル前の回転すし「めっけもん」へ、店内混んでいて数分待つて4人席に5人掛け。美味しい寿司に舌鼓、お醤油は九州の甘口醤油でした。高速船は13時20分に出航、錦江湾のなかを走っているときは快適な乗り心地。14時14分、本土最南端佐多岬を通過するころから波が高くなり揺れを感じるようになりました。屋久島が次第に視野に入り15時13分、宮之浦港に到着。屋久島「上陸」記念の集合写真を撮影しました。

鹿児島 ▶▶▶ 屋久島 Kagoshima → Yakushima				
船名	出発時刻	種別	到着時刻	手続開始時刻
111	07:30	高速	10:30	06:30
112	07:45	高速	09:45	06:45
114	10:10	高速	12:55	9:10
127	13:00	高速	15:30	12:00
117	13:20	—	15:10	12:20
118	16:00	高速	18:35	15:00

鹿児島 ▶▶▶ 指宿 Kagoshima → Satsunan				
船名	出発時刻	種別	到着時刻	手続開始時刻
112	07:45	—	08:25	06:45

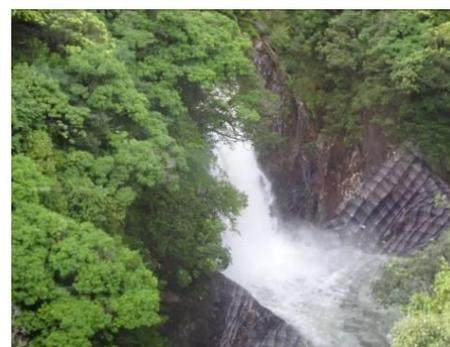
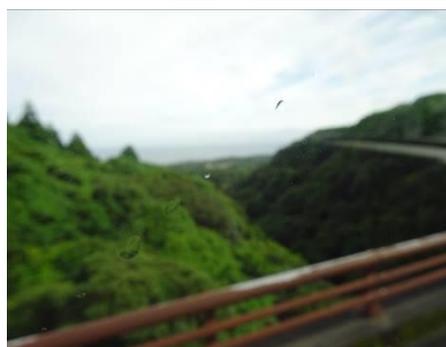
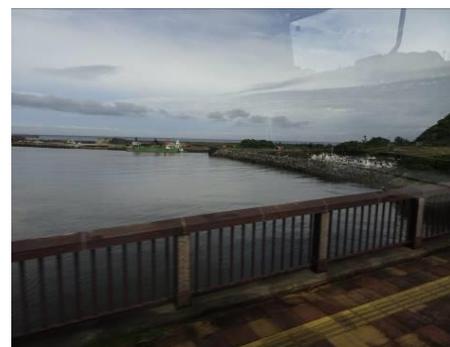


宮之浦港15時32分～安房川～16時15分 農道へ～山道

出迎えてくれたのは、岩元さんの同級生真辺登山ガイド。「当初予定は、屋久島空港から時計回りの島まわり観光でしたが、短縮して千尋（せんぴろ）の滝まで行き宮之浦の民宿に戻ってきます」と熱い語り口でスケジュール説明。真辺さんと乗ってきた高速船に見送られてバスに乗車、15時32分、港を出ました。

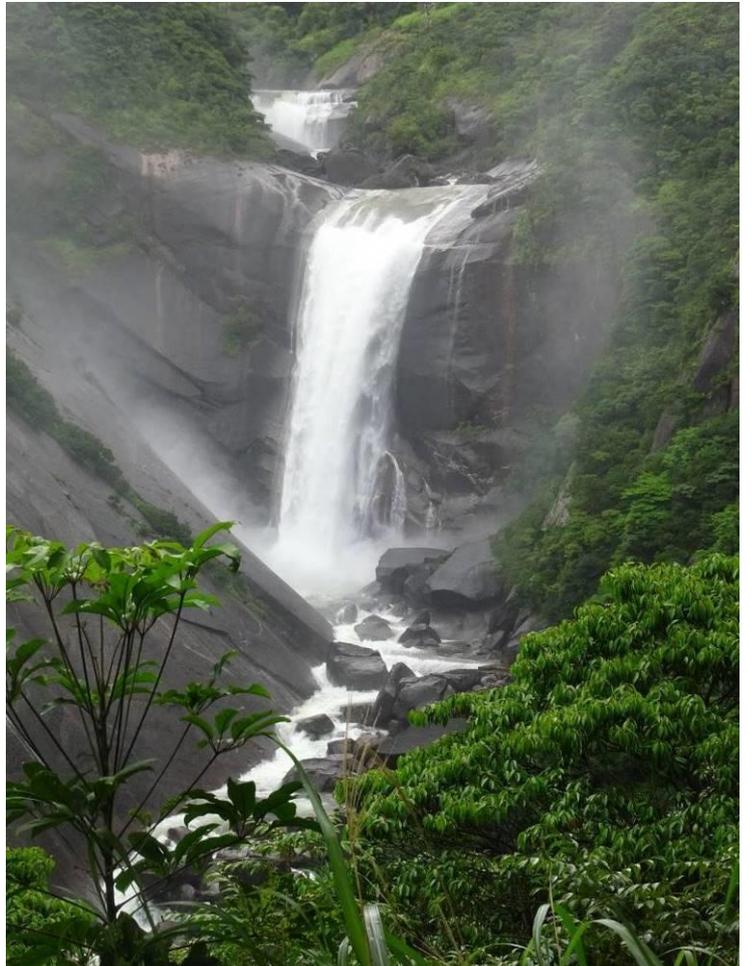


男性添乗員さんが自己紹介と運転手さんを紹介。早速ガイド開始、「屋久島は丸い形で、宮之浦港は時計の1時の位置、4時の方向の千尋の滝へ行きます。島は1周100km、9割が山で集落は円周上にあります。小学校は8校、中学校は3校、高校は・・・、九州で一番高い宮之浦岳（標高1936m）がある亜熱帯の島です・・・」とよどみなく話します。右方向に山容がきれいな愛子岳、右前方にドラッグストア、左前方に屋久島空港と、景色が展開していきます。安房（あんぼう）川を通過、添乗員さんが「河口に港があり、山で伐採された杉を運ぶトロッコ列車が港まで走っていました」と説明。16時15分、右折して上り道の農道に入りました。道は山道に変わり水量の多い竜神の滝が見えてきました。めざす千尋の滝はまだ先です。



16時30分 千尋の滝駐車場～巨大な花崗岩が織りなすV字型の谷

16時30分、千尋の滝駐車場に着きました。緩やかな下り道を進んでいくと、モッチョム岳の裾野にある千尋の滝が見えてきました。千尋の滝は、滝が流れる巨大な一枚岩が「大人千人が手を広げたほどの大きさ」という例えから命名されました。巨大な花崗岩が織りなすV字型の谷と落差60mを流れ落ちる水量の絶景に圧倒されました。みなさん、自然が作った造形美に見とれています。



千尋の滝 16時50分～「ひと月に35日雨が降る」～17時40分 やくすぎ荘

千尋の滝を背景に記念撮影をして16時50分、バスで帰路に。山道から農道へと来た道に戻り、海岸線の県道を反時計回りに北上します。車中での添乗員さんのお話、「屋久島は黒潮が流れるところに1000mから1500m級の山があり、ひと月に35日雨が降ると言われ、山間部では年間8000mmから1万2000mmの雨量です……。お土産でおすすめは、サバ節にサバ味噌、芋焼酎三岳……」。4月27日の「日の出山から山岳信仰の御岳山へ」の御岳山で見た「屋久ヤギ」と木札に書かれていたヤギについても話題に、運転手さんが「屋久ヤギという固有種はいない。(戦前だったか) 沖縄からヤギが持ち込まれて飼っていた。そのヤギのことか……」ということでした。17時40分、宿泊先の「民宿やくすぎ荘」へ、雨が少しパラついていました。



部屋名は「紀元杉」や「縄文杉」「大王杉」～食堂で夕食懇親会

荷物を持って各自部屋へ、部屋名は紀元杉や縄文杉、大王杉など杉にちなむ名称でした。部屋からは山容のきれいな山が見えました。18時少し過ぎ、1階の食堂で夕食懇親会です。お酒をいただくグループは、ビールで乾杯。料理は地のお刺身にトビウオの唐揚げなど、お酒のお替りは添乗員さんおすすめの芋焼酎三岳の水割り。「何とか屋久島について良かった」「千尋の滝は迫力があつた」「明日は天気が良い、絶好の登山日和」などと話が弾みました。真辺登山ガイドと岩元リーダーが、2日目のスケジュールと注意事項を説明。朝が早いスタートなので早めのお開きとなりました。



なが～い1日でした。とにもかくにも屋久島に着きました。鹿児島に宿泊して、29日朝1番の飛行機に乗って屋久島に着いても、縄文杉コースは3時に起床して4時のバス乗車でするので間に合いません。遅くなりましたが屋久島にたどり着いたことで、縄文杉コースOKになりました。高速船利用は、思わぬ形で2時間ほどの船旅を味わうことができ楽しかったです。(いちむら記)